

● 第 1 回 技 術 専 門 会 議 議 事 概 要

| | |
|---------|--|
| 日 時 | 平成19年5月15日(火) 14:20~16:20 |
| 場 所 | 岐阜市消防本部6階 大会議室 |
| 出席委員 | 井上委員、形見委員、寺尾委員、細見委員 【古積委員代理出席】消防研究センター 内藤浩由氏 |
| 出席関係者 | 産業廃棄物処理事業振興財団 猿田 忠義氏 |
| 傍 聴 者 | 12名(報道関係者除く) |
| 次 第 | <ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 開会あいさつ 岐阜市長 細江 茂光 3 座長選出 4 会議の趣旨について 5 内部燃焼に係る調査結果及び支障除去の考え方について 資料1・2(説明) 6 質疑・意見交換 7 まとめ 8 閉会あいさつ 9 閉 会 |
| 議 事 概 要 | <p>【座長選出】 委員互選により、井上委員を座長に選出。</p> <p>【会議の趣旨について】 次第資料：環境事業部長より説明</p> <p>【調査結果及び支障除去の考え方について】 資料1・2：事務局より説明</p> <p>【質疑・意見交換】</p> <p>《会議の進め方について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回である今回は、委員に全容を理解いただいたうえで当該事案における支障とは何なのか、また除去しなければならぬ支障なのかをまず明確にしていきたい。(座長) ・次回は、どのような対策がとれるのかについて議論していきたい。(座長) <p>《調査結果を踏まえての質疑》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酸素が多い所、ガス圧との関係、酸素がどこから供給されているか、について考え方はあるか。 <ul style="list-style-type: none"> →廃棄物が露出した法面、沢水の水路から酸素が供給されているのではないかと考える。(事務局) →断面図にボーリングの深さとガス調査の関係がわかる資料を整理してもらいたい。(座長) →次回までに準備する。(事務局) ・内部で火災が起きているが、これを支障としてどのように捉えればよいのか。 <ul style="list-style-type: none"> また、陥没したときのガスの噴出も懸念されるがこれについて意見をいただきたい。(座長) →現状からすると、緩慢な酸化反応であり、表面上で燃焼している状態とは異なる。 →現場は、酸素が供給されている状態であり、空気の遮断が必要である。 →燃焼しているということは酸素が供給されているということであり、積極的な消火の前にガス、温度のモニタリングが必要と考える。 →大気調査の結果では、周辺環境への問題は認められないが、現状としてガスが出ているかどうかを確認すべきである。 →大気中に漏れていないかどうかを確認する。(事務局) ・緊急的には、沢水の水路の水をいっぱいにして酸素の供給を断つべきである。 ・熱分解ガスが出て移動している。ダイオキシン類は、内部で吸着していると考えべきか。(座長) <ul style="list-style-type: none"> →ダイオキシン類は、有機物に吸着しやすく、炭化したガスが燃えていない状況下では生成はない。 |

- ・熱が大きく動いている状況が見られない中で、廃棄物層が陥没する可能性はあるのか。(座長)
 - 熱が大きく移動しているわけではないが、燃焼部分が陥没する可能性はある。
 - 可能性があるのであれば、陥没する前に対策を打つべきであり、対策を講じなければならない。温度分布を今後調べ、正確なモニタリングにより大丈夫かどうかを判断する必要がある。(座長)
- ・調査結果から燃焼ガスの発生状況を見たときに、支障と考え、直ちに対策を講じる必要はあると考えられるか。(座長)
 - 時間軸でb-31と同様となる可能性があるため、早急に対策すべきである。
 - 地表面の沈下に対して変化を見るとよい。
 - 沈下については、毎日測定を実施している。(事務局)
 - まずは、ダイオキシン類が出ているかどうかを確認することが必要ではないか。
 - 水を使用することに対して、現状に対してかなりのインパクトを与える。沢水のコントロールや、空気の遮断が必要と考える。
 - 対策案は、いずれも環境にインパクトを与えるものなので、よりインパクトのない対策は何なのかを検討する必要もある。
- ・現況の沢水水路の暗渠構造が分かる資料を次回会議に提出してもらいたい。(座長)
 - 了解した。(事務局)
- ・欠席委員からは、水路の閉鎖、法面の覆土等の意見をもらっている。(事務局)
- ・ダイオキシン類は常に生成されているのか。どのくらい生成されているのか。ある程度の平衡状態になっていると考えられるのか。また、拡散させない方法で何か対策はあるのかご意見を伺いたい。(座長)
 - 熱分解反応があるので、徐々に生成していると考えられる。
 - 温度が維持されているので、徐々に生成していると思われる。大気中に出ているかを確認し、仮に出ていれば、早急に法面の覆土等の緊急対策が必要と考える。

《覆土について》

- ・内部の中間の覆土については、一枚層となっていないため、空気の通気があるものと思われる。モニタリングにより、ガスが出ていないことを確認するまでは、覆土すべきと考える。(座長)
- ・現在掘削している箇所は、どの辺か？→b-38付近
 - これまでの調査結果から、内部燃焼の影響が及んでいると思われる箇所は、覆土すべきと考える。逆に、影響が及んでいないところであれば良いのかもしれないが、最終的には市が判断すべきことであると考ええる。
- ・当会議としては、市に対して、周囲からガスの排出がないことが分かるまでは、50センチ程度の覆土をしたほうがいいのかというアドバイスをしたい。(座長)

| | |
|---------|--|
| 資料請求等 | ①廃棄物層断面図（ボーリング深度とガス調査の関係がわかるもの） ②沢水の水路の暗渠構造がわかる資料 |
| 意見箱提出意見 | 1通 |